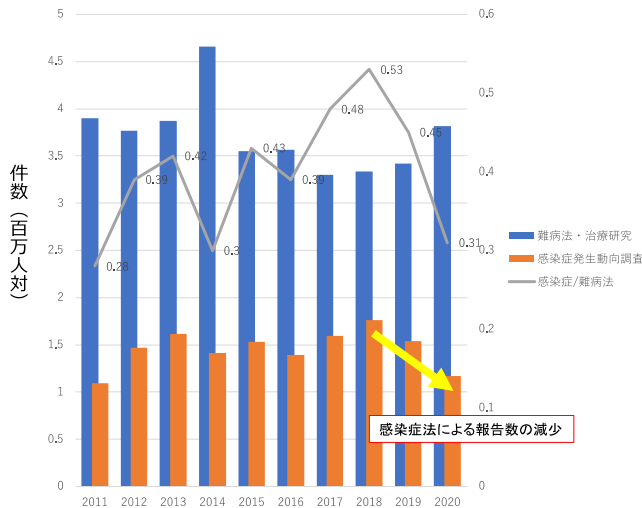


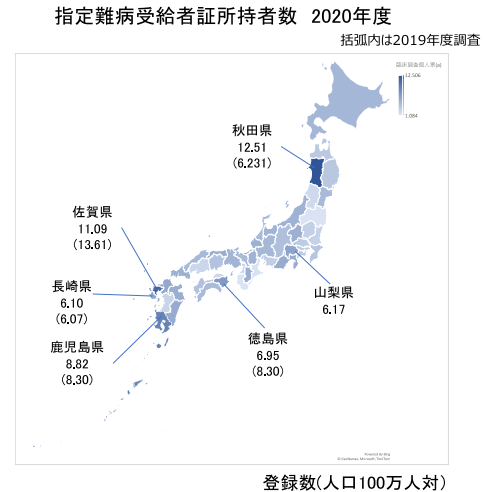
プリオン病サーベイランスデータの管理・運用の研究

研究分担者：東海大学医学部 臨床薬理学 金谷泰宏

1 難病法及び感染症法による症例の把握



2 プリオン病の地域分布



3 個人票と感染症発生動向調査票との互換性

感染症発生動向調査票に追加が必要とされる項目

5 診断方法

5)検査

CT/MRI検査の実施

- 脳萎縮の有無
- 両側対称性の視床枕の高信号
- DiffusionまたはFLAIRでの高信号の有無

脳脊髄液検査

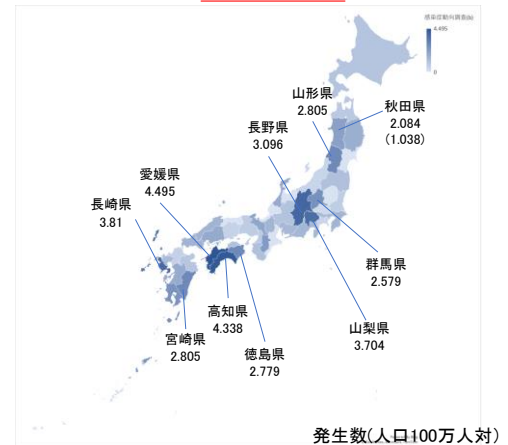
- 細胞数の正・増 [検査値 / μ l 基準値 / μ l]
- 蛋白量の正・増 [検査値 mg/dl 基準値 mg/dl]
- NSEの正・増 [検査値 ng/dl 基準値 ng/dl]
- 総タウ蛋白の正・増 [検査値 pg/dl 基準値 pg/dl]

6 症状

運動失調、舞踏運動、ジストニア、交感神経興奮状態

感染症動向調査 2020年度

新規発生を把握



解 説

- 2011年度から2018年度にかけて感染症発生動向調査による報告数は1.09から1.54と(100万人対)と大きく伸びているが、2019年度を境に低下傾向を示し、2020年度は1.17と大幅に減少した。難病法及び治療研究事業での把握数については累積を反映することになるが、2011年度 3.90から2019年度 3.42(100万人対)と難病法が施行された2014年度を境に低下傾向にあったが、2020年度は3.81まで増加した。
- 感染症動向調査は、2020年度の新規発生を把握するものであり、指定難病は有病者数を把握するものであるが、秋田、山梨、長崎、徳島の4県で傾向の一致を認めた。
- 迅速な患者数の把握を進めるためには、感染症発生動向調査で得られたデータの解析を進める必要がある。この際に問題となるのが、難病法による調査項目との互換性であるが、診断方法及び症状において追加が必要な項目を抽出した。